

中国語における〈名誉/不名誉〉の概念化について — 〈顔〉のメタファーに関する分析を通して—

韓濤

北京外国語大学

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

人的〈脸〉就是一张晴雨表，可以映射出一个人的内心世界（Yu 2001）。汉语在表达〈荣辱〉这组概念时，常常用到一些和〈脸〉有关的词语就是一个很好的例证（如“丢脸”“脸皮厚”等）。但以往的研究，并没有对汉语的〈荣辱〉的概念化进行深入的考察。本文在韩涛 2009b 的基础上，以〈脸〉的隐喻化为线索，对这一问题作了深入详细的探讨。我们得出的结论是，汉语的〈荣辱〉的概念化主要是通过四个隐喻来实现的。它们分别是：（1）「容器」（CONTAINER）隐喻、（2）「所有物」（POSSESSED OBJECT）隐喻、（3）「事态结构」（EVENT STRUCTURE）隐喻、（4）「评价性」（EVALUATION）隐喻。而且，值得注意的是，用来表达〈荣辱〉的这些概念领域并非其专属的概念领域，而是从跟其构成范畴关系的上位隐喻中继承过来的。

1. はじめに

“丢脸”[恥をかく]や“脸皮厚”[ずうずうしい]が表すように、中国語における〈名誉・不名誉〉は一般に、「顔」という身体部位を通して比喩的に理解される¹⁾。本稿では「顔」がどういった概念領域を通してメタファー的に理解されるかを一種の手がかりとし、中国語における〈名誉・不名誉〉の概念化について考察する。

なお、本稿の構成は以下の通りである。第2節では認知メタファー理論の観点から、「メタファー」という概念について概観する。第3節では韓濤 2009b で提案されている4つのサブメタファーを分析の枠組みとし、中国語における〈名誉・不名誉〉の概念化を考察する。第4節では〈名誉・不名誉〉を特徴づける〈容器〉や〈所有物〉といった起点領域は、いずれもその上位メタファーから継承されたものであり、概念固有的（concept-specific）ではないことを主張する。

1) 例えば“面红耳赤”[顔を真っ赤にする]や“脸热”[顔がほてる]といった表現が表すように、〈顔〉はいわば〈感情〉のバロメーター的な存在である（詳しくは Yu 2001 を参照）。

2. 概念化装置としてのメタファー

メタファー (metaphor) という用語は古くアリストテレスの時代にまで遡ることができ、長い間 “a figure of speech” すなわち「言葉のあや」の意味で用いられてきた。これに対して、本稿が依拠する認知メタファー理論 (the cognitive theory of metaphor) は Lakoff と Johnson らによって 20 世紀 80 年代に確立されたもので、「メタファーは人間の思考の根幹にかかわるものである」を基本主張とする新しいメタファー理論である。

以下、メタファーがいかに概念形成にかかわっているかについて、例 (1) をもとに詳しくみてみる。

- (1) 所以，我对婚姻的定义是：婚姻就是那辆你开顺手的老破车，它伴随你走过了很长的旅途，随着时间的推移，它需要维护，修理，甚至有可能半道罢工。如果你一直坚持不换，其实到老了，它依旧可以陪伴你，只是功用不同。……
车要是半道罢工了，对你是个很大的问题。你是站在路边跟它耗着，还是搭个顺风车继续前行，等着它被拖回去，你一回家它又在那里等你？抑或我索性不要了，换辆新车开开，但不可能徒步到达目的地。多老，你都需要交通工具。

(六六《妄谈与疯话》 下線および日本語訳は引用者による)

[だから、私の婚姻に対する定義はこうだ：婚姻とはすなわちあなたが乗りこなしたボロ車である。あなたと共に長い旅をし、時間の推移に伴ってメンテナンスと修理が必要になり、道中で故障する可能性だってある。もしあなたがずっと買い替えをしようとしなければ、古くなってもそのボロ車は依然としてあなたのお供をすることができる。ただしその働きは異なる。…

道中で車が故障したら、あなたにとって大きな問題だ。あなたは道端に立って何もせずただ車と時間をつぶすか、それともヒッチハイクして旅を続け、車が家まで運ばれるのを待って、あなたが家に着いたときに、その車がまたそこであなたの帰りを待っていることにするか。或いは思い切って故障した車を乗り捨てて新車を運転することにするか。しかしあなたは徒歩では目的地に辿り着くことができない。なぜならどんなに老いても、あなたには乗り物が必要だからだ。]

〈恋愛〉は〈椅子〉や〈机〉といった概念とは異なり、空間上一定の輪郭を有さないいわば抽象的概念である。しかしこれは決して、我々が〈恋愛〉について理解もでき

なければ、語ることもできないということの意味しない。〈恋愛〉が〈旅〉の観点から述べられている例(1)はその言語的証拠となる。このように、〈恋愛〉のような抽象的概念を語る際に、〈旅〉のようなより具象性の高い概念を介して目標とする概念を捉えることができる。

さらに、注目しなければならないのは、メタファーによるこの種の捉え方は推論のレベルにまで及んでいるということである。例(1)で言えば、旅の最中、長く乗っていた車が突然故障した際に考えられる選択肢は、そのまま〈恋愛〉に関する推論に転用されうる。すなわち“站在路边跟它耗着”[道端に立って車と時間をつぶす]、“搭个顺风车继续前行”[ヒッチハイクして旅を続ける]、“索性不要了,换辆新车开开”[思い切って故障した車を乗り捨てて新車を運転することにする]のうち、1つ目の選択肢は彼(ないしは彼女)が今の2人の関係を修復しようともせず、終止符を打とうともせず、消極的な態度をとっていることを意味する。2番目を選択した場合、それは今2人の間で問題が発生しているものの、それでも何とかして困難を乗り越えて関係を維持したいということ、3番目の選択肢を選んだ場合には、それはとりもなおさず彼(ないしは彼女)が今の関係を断ち切ろうとすることをそれぞれ意味する。

以上、メタファーがもつ概念化装置の一面について簡潔にみた。次節からは、メタファーは一種の概念化装置としてどのように中国語の〈名誉・不名誉〉を概念化しているのかに関する議論に入る。

3. 中国語における〈名誉・不名誉〉のメタファー体系

3.1 分析の枠組み

韓涛 2009b では〈顔〉の比喩化との関連から、中国語における〈名誉・不名誉〉のメタファー体系を構成するサブメタファーとして、(i) 容器のメタファー、(ii) 所有物のメタファー、(iii) 事象構造のメタファー、(iv) 評価性のメタファーの4つが提案されているものの、詳しい議論は行われていない。以下では上記4つのサブメタファーを分析の枠組みとし、それぞれがもつ具体例を提示しながら考察する。

3.2 容器のメタファー

韓涛 2009a など明らかにされているように、〈容器〉(CONTAINER)は様々な抽象物の概念化に用いられうる。〈名誉・不名誉〉という感情も例外ではない。次の例(2)が示すように、〈顔〉が〈容器〉として比喩化される際に、〈名誉・不名誉〉という抽象物はその〈内容物〉として概念化されうる。

- (2) 为了不致让自己沦为乞丐，他们只得厚着脸皮在村中“蹭”朋友的饭吃

<http://www.tianya.cn/publicforum/content/culture/1/288694.shtml>

[ホームレスにならないように、彼らは厚かましくも村に住んでいる友人のところに飯をたかりに行くしかない。]

また、我々は「容器が厚ければ厚いほど中の内容物の熱が外に伝わりにくい」という〈容器〉—〈内容物〉に関する百科事典的知識を用いて、“厚着脸皮”[面の皮を厚くする]という表現について「顔の皮が厚ければ厚いほど不名誉のシグナルが外に伝わりにくい」というように推論することも可能である。これに対して、次の例(3)は《顔は名誉を入れる容器》というメタファーの具体例である。

- (3) 有的人家为撑面子，办一次丧事，光买随葬品就得花费几千元。

<http://rmrbw.net/read.php?tid=1098768>

[見栄を張る家では一回のお葬式にかかる費用は副葬品だけでも数千元は下らない。]

このとき我々は「容器が大きければ大きいほどその中の内容物(の量)も多い」という〈容器〉—〈内容物〉にかかわる推論から、“撑面子”[見栄を張る]という表現に関する次のような推論、「名誉の多さは顔のサイズの大きさに比例する」というものが得られる。また、例(3)同様、次の例(4)も《顔は名誉を入れる容器》を表すメタファー表現であるといえる。

- (4) 再体面的人也无法禁止自己肚子的咕噜，再娇嫩的妇女也必须撕破脸皮到地里去捡烂红芋。 <http://www.cnrr.cn/rrwx/wxzj/d/daihouyeng/168xs.asp>

[どんなに面目を重んじる人でもお腹が空かないようにすることができなければ、どんなに華奢な婦人でも顔をつぶして畑に腐った紅芋を拾いに行かなければならない。]

〈容器〉—〈内容物〉の性質に基づいて、例(4)の“撕破脸皮”[顔をつぶす]という表現は次のようにメタファー的に理解できる。〈容器〉がダメージを受ければ〈内容物〉が傷つくように、〈顔〉がダメージを受ければ〈名誉〉も傷つく。

上記の例(2)～(4)では〈顔〉がいずれもある種の〈容器〉として概念化され、〈名誉・不名誉〉はその〈内容物〉として概念化されている。しかし次節で議論する

ように、〈顔〉は一種の〈所有物〉として比喩化され、〈名誉・不名誉〉は〈ものの操作〉や〈もののやりとり〉を通して理解されるケースもみられる。

3.3 所有物のメタファー

次の例(5)では“丢面子”[面目を失う]や“扫~的面子”[~の面目を失わせる]という表現が示すように、〈顔〉は一種の〈所有物〉としてメタファー化されうる。

- (5) a. 她躺在床上，委屈的泪水盈眶而出。是不是母亲还是怕丢面子，想早点把她嫁出去，省却一件心事？(CCL)

[彼女はベッドに横たわると目から悔し涙が溢れ出た。やはり母は面目を失うのを恐れており、彼女を早めに嫁に出せば自分は気楽になるとでも思っているのだろうか。]

- b. 难道你已经干下对不起人的事了，怕得这样！你这会儿不去，算是扫我的面子呀？ 反正我的心你都当废物那样扔了，我的面子，你还会爱惜吗—还说什么对得起、对不起我！（十月天蝎《洗澡》 下線および日本語訳は引用者による）

[こんなに怖がっていてまさか人に申し訳が立たないようなことでもやったのかしら。いまあなたが行かないのは、私のメンツをつぶす（←面目を失わせる）ため？ どうせ私の心はもうガラクタのように捨てられたのだから、私のメンツなんかどうでもいいと思っているでしょう—だったら私に申し訳が立つとか、立たないとか言うんじゃない！]

例(5a)の“面子”[面目]は「その所有者は誰であるか」が明示されていないものの、文脈から「母」の所有物であると読み取れるのに対して、例(5b)の“面子”[面目]は「私」という修飾語を受けており、「私」の所有物であると理解できる。また、価値のある〈所有物〉を失いたくないように、人は〈面目〉を失うことを非常に恐れている（例(5a)参照）。しかし所有しているものは価値がなくなれば捨てられる恐れがあるように、〈面目〉もいったん価値がないと思われればガラクタのように捨てられる恐れがある（例(5b)参照）。

また次の例(6)が表すように、失ったものが再び取り戻せるように、一度失った〈面目〉も再び取り戻すことが可能である。

- (6) a. 哪怕花点儿钱，也要把这个面子找回来。(CCL)

[少々金がかかってもこの面目を取り戻したい。]

- b. 那一箱子书，却很快给他找回了脸面，让他借此在学界迅速抬起头来。(CCL)

[その一箱の本のお陰で彼はすぐさま面目を取り戻すことができた。そしてこれを機に彼の学界での地位は急速に上昇した。]

上の例(6a) (6b)では動詞“找”[捜す]の後ろに“回”[戻る]という方向補語がそれぞれ用いられており、問題の「面目」は一度失ったものであると理解できる。

さらに、次の例(7a)～(7d)では“给”[与える]、“赏”[ほうびを与える]、“买”[買う]、“卖”[売る]といった表現からわかるように、〈名誉・不名誉〉は〈もののやりとり〉を通してメタファー的に理解されている。

- (7) a. 你不给我面子，就等于不给可慧面子！不给可慧面子，就等于不给钟家全家面子！(CCL)

[私の顔をつぶす(←顔を与えない)ということはすなわち、可慧の顔をつぶすということなのだ！そして可慧の顔をつぶすということはすなわち、鐘家全員の顔をつぶすということなのだ！]

- b. 他没有想到轮到自己敬酒时，金滔不肯赏脸；(CCL)

[彼はまさか自分の番で乾杯するとき、金滔が顔を立てて(←ほうびとして顔を与えて)くれないとは思ってもみなかった。]

- c. 这倒无所谓，反正蒋芴泉不能不买我的面子，现在就可以打入预算之内。(CCL)

[別に構わない。どうせ蒋芴泉が私の顔を立てざる(←顔を買わざる)を得ないからだ。それは今すぐ予算のリストに入れてもよいぐらい確実なものなのだ。]

- d. 浙江归大人管辖，马中丞亦不能不卖这个面子。(CCL)

[浙江が大人さまの管轄地だから、馬中丞でさえ大人さまの顔を立てざる(←顔を売らざる)を得ない。]

例えば例(7c) (7d)が示すように、〈名誉・不名誉〉は一種の〈売買〉行為を通して概念化されうる。相手が自分の顔を買ってくれることは、自分のメンツを立ててくれることを意味し(例(7c)参照)、相手が顔を売ってくれることは、自分の面目を施すことになる(例(7d)参照)。

しかしなぜ自分は例 (7c) では売り手で、例 (7d) では買い手であるにもかかわらず、いずれも自分のメンツが立つという解釈が成り立つのであろうか。すでに述べたように、〈名誉・不名誉〉は自分と相手の〈売買〉行為を通してメタファー的に理解される。ここでの問題は、自分の望み通りにその売買行為をすすめることができるかどうかという点にある。例 (7c) では自分は売り手であり、相手（「蔣芎泉」）は買い手であるが、自分が相手に何かを売りつけたければ、相手が（少し損をしても）それをすぐさま買ってくれる（つまり“买我的面子”である）。一方、例 (7d) では買い手と売り手は自分と「馬中丞」にそれぞれ変わったものの、自分が何かを買いたければ、相手が（いやでも）「メンツ」を売らざるを得ず、自分の望む通りに事が運ぶということに関しては例 (7c) と変わらない。このように、売り手であるか買い手であるかに関係せず、取引が自分の思う通りにすすめられることは、自分のメンツが立つことを意味するのである。

3.4 事象構造のメタファー

事象構造のメタファーとは、「線と移動、力および人間の移動に関連した複合領域」（鍋島 2011 : 173）をメタファーの起点領域とし、「空間の論理に基づいて、状態、変化、因果という事象の生起や、行為、目的、手段、困難、予定という人間的営為」（鍋島 2011 : 173）を概念化するメタファーのことである。Lakoff 1993 : 204 - 214 によって明らかにされているように、事象構造のメタファーは《状態は場所》《変化は移動》《原因は力》など、豊富な写像をもっている（表 1 参照）。

— States are locations.	《状態は場所》
— Changes are movements.	《変化は移動》
— Causes are forces.	《原因は力》
— Actions are self-propelled movements.	《行動は自力移動》
— Purposes are destinations.	《目的は目的地》
— Means are paths.	《手段は経路》
— Difficulties are impediments to motion.	《困難は移動の障害》

【表 1】 事象構造メタファーの写像（Lakoff 1993 : 204）

上記に示されるメタファー写像を援用することによって、中国語における〈名誉・不名誉〉の概念化を効果的に説明することができるものと考えられる。次の例(8)をみよ。

- (8) a. 因为在当时，社会上官场中对此事的议论很大，使他觉得异常丢脸，面子上太过不去！（CCL）

[なぜなら当時、世上や官界ではこのことに関して盛んにうわさされており、そのことで彼は恥さらしになったと感じた。これでは自分の顔が丸つぶれになる（←メンツの上を通ることができない）。]

- b. 当时梁山的老大是王伦，看到这些粗人们虽然心里很不高兴，但是碍于面子，还是把他们留了下来。（CCL）

[当時梁山の統領は王倫という人で、彼はこれらの無骨な人を見ると嫌悪の気持ちになるが、情にほだされて（←メンツに妨げられて）やむを得ず彼らを引き留めた。]

例(8)では〈顔〉が人々の行動を阻む一種の〈障害〉として概念化されている。そして表1からわかるように、ここで〈名誉・不名誉〉の概念化と深くかかわっているメタファー的写像は次の2つである。

- Actions are self-propelled movements. 《行動は自力移動》
- Difficulties are impediments to motion. 《困難は移動の障害》

当該メタファー写像を例(8a) (8b) にそれぞれ当てはめていけば、次のようになる。例(8a)では周囲の取りざたは「彼」にとって〈不名誉〉なことである。この〈不名誉〉は「彼」が先にすすむうえでの〈障害〉となっている（逆の場合は、“过得去” [通れる] である）。一方、例(8b)では自分が気に入らないという理由で梁山に身を寄せる人たちを追い払うことが、梁山の統領としては恥をかくことである。そしてこの〈不名誉〉（とされること）は「王倫」がそのような行動をとるうえで一種の〈障害〉になっているといえる。また、ここでいう〈障害〉とは上位カテゴリーのことであり、例(8)が示す〈障碍物〉以外にさらに、以下のようなバリエーションが挙げられる。

- (9) a. 所谓君子协议，主要是指对老关系户，老业务户过于信任或拉不开面子，不订书面协议，只订口头协议。（CCL）

[いわゆる君子協議とは、主に古いお得意様のことを信用しすぎること或いは自分の面目を失うのを恐れるため、書面契約をせず口頭でのみ契約を結ぶことを指す。]

- b. 他正在招兵买马，说是和你商量，其实是强要你家的孩子，驳了他的面子，吃不了，兜着走，到时候有你的小鞋穿。（CCL）

[彼は武力を組織し拡充しているところだ。相談といってもお宅の子供を無理やりに連れていくことが目的だ。もし彼に逆らったら、いずれひどい目にあってしまうよ。]

- c. 其中，主要是一些没有门路的，或放不下面子的工程技术人员和少数确实什么也干不了的人。（CCL）

[その中に、主につてのない、もしくは面目を重んずる技術者と、少数の本当に何もできない人達がいる。]

例 (9a) (9b) の“拉不开” [引っ張れない] や“驳了” [反駁した] からわかるように、ここでは〈名誉〉が〈抵抗の力〉として比喩化されている。これに対して、例 (9c) の“放不下” [置けない] が示すように、〈重荷〉としての〈名誉〉もみられる。ただし注意すべきは、〈容器〉や〈所有物〉に関するメタファーが日本語にもみられるのに対し²⁾、上でみた〈事象構造〉のメタファーは日本語には観察されず（例 (9) の日本語訳を参照）、中国語のみを特徴づけるのに用いられるということである。ここから、こうしたメタファーは中国語話者の〈名誉・不名誉〉に対する独自の考え方を表していると考えられる。

3.5 評価性のメタファー

本節では〈名誉・不名誉〉が〈明暗〉もしくは〈美醜〉を通して理解される評価性のメタファーについて検討していく。

まず〈名誉・不名誉〉が〈顔色〉の〈明暗〉を通して理解される例をみってみる。

- (10) a. 儿子在北京上大学，农民父亲的脸上很光彩，连自己节衣缩食也成了一种快乐。（CCL）

2) 例えば「面の皮を厚くする」や「面目を失う」はそれぞれ日本語における〈容器〉と〈所有物〉のメタファー表現であるといえる。

[息子が北京の大学に通っていることで農民である父は大いに面目を施すことになった。そのせいか衣食を切り詰めることでさえも楽しいことになっている。]

- b. 再后来，我考上了大学，爸爸决心戒赌，说不给儿子脸上抹黑。（CCL）
[その後、私は大学に受かり、父は息子の顔に泥を塗ってはいけないと言ってギャンブルをやめることを決心した。]

例 (10a) の“光彩” [色とつや] が表しているように、〈名誉〉は〈顔の明るさ〉を通して理解されている。これに対して、例 (10b) の“抹黑” [顔をつぶす] が表しているように、〈不名誉〉は〈顔の暗さ〉を通して理解されている。一方、“出丑” [恥をさらす]、“丑事” [スキャンダル] や“美事” [立派な事柄] といった表現からわかるように、〈名誉・不名誉〉はさらに〈美醜〉を通してメタファー化されうる³⁾。次の例 (11) は《名誉は美》《不名誉は醜》のメタファー表現 (の一部) である。

- (11) a. 办好了珍珠节，大家脸上都好看；办不好珍珠节，大家脸上都无光。（CCL）
[真珠祭りを盛大に盛り上げたら、皆も面目を施すことになる。逆に盛り上がらなかったら、皆が顔がつぶれることになる。]
- b. 老年人说：“我看这女县长有点过份，栽了你公公，你脸上也不好看了！”（CCL）
[老人は「この女県長はちょっとやり過ぎた。自分の舅の顔をつぶすなんて自分の顔もつぶれるだろう。」と言った。]
- c. 真要闹到警察厅去，恐怕咱们家的面子也不好看（CCL）
[本当に騒ぎを起こして警察署に連行されたら、我々の顔も丸つぶれになるだろう。]

下線部からわかるように、例 (11a) では〈名誉〉は〈顔の美しさ〉として概念化されているのに対し、例 (11b) (11c) では〈不名誉〉は〈顔の醜さ〉として概念化されている。しかし、なぜ〈名誉・不名誉〉は〈明暗〉や〈美醜〉に基づいて理解されるのであろうか。

3) さらにいえば、“听说考上了大学，心里美得不得了” (『中日辞典』第2版小学館、p.982) [大学に受かったと聞いて、すっかり有頂天になる] という表現が示しているように、中国語の“美”は動詞としても用いられうる。そしてこの種の動詞的用法は、以降にみる《名誉は美》というメタファーに基づいていると考えられる。

一般に〈名誉〉はポジティブな感情の一種であるのに対し、〈不名誉〉はネガティブな感情の一種であるといえる。一方、“前景光明” [見通しが明るい] や“前景暗淡” [見通しが暗い] といった表現が表すように、中国語でも〈明〉はポジティブな評価性を有するのに対し、〈暗〉はネガティブな評価性を有する概念であると考えられる。このように考えれば、《名誉は明》《不名誉は暗》のメタファー基盤として評価性が挙げられる。また、人の顔色は誇らしい気持ちになると明るくなり、不名誉に感じるとくすんでしまうことからわかるように、起点領域である〈明暗〉と目標領域である〈名誉・不名誉〉からは共起性が見出せる。従って、この種の共起性も当該メタファーの存在理由の1つになっていると考えられる。同様のことは《名誉は美》《不名誉は醜》というメタファーについてもいえる。

4. 起点領域は概念固有的か

ここまで〈名誉・不名誉〉を概念化する際に主に用いられる (i) 容器のメタファー、(ii) 所有物のメタファー、(iii) 事象構造のメタファー、(iv) 評価性のメタファーの4種類のメタファーの具体例をそれぞれ提示し検討してきた。本節では〈名誉・不名誉〉を特徴づけるのに用いられるこれらの起点領域は〈名誉・不名誉〉のみを特徴づけるものが概念固有的であるか否かについて論じる。以下、〈名誉・不名誉〉のもつ起点領域のうち、〈容器〉〈所有物〉(ないしは〈品物〉) 〈障害〉の3つに焦点を当てて順に検討していく。

〈名誉・不名誉〉は〈感情〉の一種であるため、〈感情〉と同様な観点からメタファー的に理解されうる。前述のように、〈感情〉は〈身体部位〉と密接な関係をもち、〈身体部位〉という〈入れ物〉の〈中身〉として概念化されうる。このように、3.2でみた《顔は名誉・不名誉を入れる容器》は《身体部位は感情を入れる容器》というメタファーの下位メタファーに相当し、その起点領域は上位メタファーから継承されたものであると考えられる。

また、〈名誉・不名誉〉は〈状態〉の一種でもある。Kövecses 1995によれば、〈状態〉は「性質→(対人) 関係→(人と人の) 相互作用」というような階層構造を形成している。

目標領域

States [状態]
 Attribute [性質]
 Relationship [関係]
 Interaction [相互作用]

起点領域

← Object [物体]
 ← Possessed object [所有物]
 ← Bond [絆]
 ← Economic exchange [経済的交流]

【表 2】 〈状態〉の階層構造 (Kövecses 1995 : 326)

表 2 が示しているように、階層構造の最上位の〈状態〉は一般的に〈物体〉として概念化されるが、その下に位置する〈性質〉は、例えば例 (5) や (6) 、または「自信をなくす」や“have trouble” [困る] といった表現が表すように、〈所有物〉として概念化されうる⁴⁾。また〈性質〉の下位にある〈(対人) 関係〉は“断交” [関係を断つ] や“结交” [関係を結ぶ] といった表現が表すように、2つの物体の間の〈絆〉として概念化されうる。さらに〈(対人) 関係〉の下位にある〈人と人の相互作用〉は一種の〈経済活動〉としてそれぞれ概念化される (例 (7) 参照)。ここで問題となっている〈名誉・不名誉〉は〈性質〉、そして〈相互作用〉との間に一種のカテゴリー関係が成立するため、3.3 でみた〈所有物〉 (ないしは〈品物〉) という起点領域は概念固有的領域ではなく、上位概念である〈性質〉や〈相互作用〉に適用されるメタファーの起点領域を継承したものであるといえる。

さらに、〈名誉・不名誉〉にかかわる〈行為〉と〈行動〉全般の間にも一種のカテゴリー関係がみられるため、〈名誉・不名誉〉を特徴づける〈移動の障害〉という起点領域もその上位に位置する《行為は自力移動》《困難は移動の妨げ》という事象構造メタファーの写像から継承されたものであると考えられる。

以上をまとめると、目標領域としての〈名誉・不名誉〉は、それとカテゴリー関係をなす上位メタファーからそれぞれ起点領域を継承しているため、〈容器〉〈所有物〉 (ないしは〈品物〉) 〈障害〉といった起点領域は〈名誉・不名誉〉にとって概念固有的ではないと結論づけられる⁵⁾。

4) このように考えれば、日常生活でよく用いられる“英语扔了好多年了, 现在想捡起来” [英語をやめて (←捨てて) 何年も経ったが、いまはまた始めたい (←拾いたい)] という表現も《性質は所有物》を表すメタファー表現の 1 つであるといえる。

5) 同様に〈名誉・不名誉〉と〈ポジティブ・ネガティブ〉の間にもカテゴリー関係がみられる。従って《名誉は明/美》《不名誉は暗/醜》の起点領域もその上位メタファーに相当する《ポジティブは明/美》《ネガティブは暗/醜》から継承されたものであるといえる。

5. おわりに

ここまで中国語話者が〈名誉・不名誉〉を概念化する際に用いる主なサブメタファーとして、(i) 容器のメタファー、(ii) 所有物のメタファー、(iii) 事象構造のメタファー、(iv) 評価性のメタファーの4つを取り上げて、〈名誉・不名誉〉を特徴づける起点領域が概念固有的であるかどうかという問題も含めて考察してきた。

ここからわかるように、中国語における〈名誉・不名誉〉を理解し語る際に〈顔〉のメタファーが決定的な役割を果たしており、これにより空間上輪郭をもたない抽象的概念は豊かな意味構造をもつものとなり、それについて理解したり推論したりすることも可能となる。この結果は「抽象概念の大部分はメタファーに基づいて理解される」という認知科学の発見をさらに裏づけたものである。

参考文献

韓涛 2009a. 「容器のスキーマと中国語“NP+里”の意味拡張」『日本認知言語学会論文集』第9巻、pp.12-22。

韓涛 2009b. 「中国語『顔』のメタファーについて—〈名誉/不名誉〉という概念との関連において—」『日本中国語学会第59回全国大会予稿集』、pp.238-242。

鍋島弘治朗 2011. 『日本語のメタファー』くろしお出版。

Kövecses, Zoltan. 1995. “American friendship and the scope of metaphor.” *Cognitive Linguistics* 6, no. 4: 315-346.

Lakoff, George. 1993. “The contemporary theory of metaphor.” In *Metaphor and thought*, ed. Andrew Ortony, 202-251. Cambridge: Cambridge University Press.

Yu, Ning. 2001. “What does our face mean to us?” *Pragmatics & Cognition* 9(1), 1-36.

中国語用例出典：北京大学中国語学研究中心（CCL）語料庫。